

烟管産地

烟草粗末者、包以福州紙、卷轉爲一小棒狀、一頭點火、就一頭吸之、茂質管聞、此南蠻地方之俗云、

〔雍州府志<sup>七</sup>〕喜世留 倭俗良賤好烟草吸之、筒謂喜世留、是朝鮮所謂烟筒也、今處々製之、然洛下間町、并大佛邊所造爲本、

〔毛吹草<sup>三</sup>〕山城 二條キセル 粟田口キセル 攝津 築島キセル 近江 水無口キセル

肥後 隈本キセル

〔おほうみのはし〕石山殿中ごろことやうなるきせるをつくり出されたりけるを、石山きせるとて、人々もて興じけり、

〔續江戸砂子<sup>一</sup>〕江府名産

池の端きせる 東叡山池の端、地ばりきせるといふ、

〔嬉遊笑覽<sup>二</sup>器用<sup>中</sup>〕きせるは、池の端の住吉屋清兵衛が、田沼ばりとも、出世張とも云るがはやり、其後水野某が好にて、今戸張など出來たり、又その隣家瀧口屋宗八と云へるは、専ら吉原のきせるを作れり、

○按ズルニ、吉原のきせるトハ、江戸吉原遊廓ノ娼妓ガ専ラ用キル所ノキセルノ謂ナルベシ、〔本朝世事談<sup>綺</sup>器用<sup>二</sup>〕烟管

たばこの渡りたる時節は、紙を卷てたばこをのみたり、そののち霞あるひは細き竹をそぎて、それにてたばこ盛りてのみけると也、<sup>中</sup>跡先に鑰を用るは、頃年の事なり、

〔東海道名所記<sup>五</sup>〕水口より石部まで三里半、<sup>中</sup>此宿には、つゝら籠裏<sup>こ</sup>釜敷<sup>り</sup>笠などあみてうる、<sup>中</sup>水口きせるも名物也、

〔焉錄<sup>下</sup>追譯<sup>増</sup>補<sup>古</sup>製<sup>煙</sup>管<sup>圖</sup>或<sup>藏</sup>圖<sup>略</sup>〕

此水口權兵衛所造、頭尾別鑿、五七桐花徽號者、世謂之太閤様、即云、豐太閤所用也、未知其然否、